

中池見湿地におけるカメ類の棲息状況～その深刻な現状と対策について

○西堀智子（和亀保護の会） 上野山雅子（中池見ねっと）
 宍倉慎一郎・加賀山翔一（東邦大院・理） 長谷川雅美（東邦大・理）

福井県敦賀市にある中池見湿地は、2012年にラムサール条約に登録された面積約25haの泥炭湿地である。絶滅危惧種を含む多種多様な動植物が確認されている一方、アメリカザリガニなどの外来生物の侵入も多く、生態系保全のために盛んに駆除が行なわれている。近年、遺棄されたと思われるミシシippアカミミガメの捕獲例もあり、2016年8月、外来カメ類に関わる問題啓発のため、子供を対象とした捕獲調査「なかいかげみ探偵団」の指導を行った。その結果はミシシippアカミミガメの捕獲はなかったものの、クサガメと雑種（クサガメ×ニホンイシガメ）が全体の3分の1以上を占めるという驚くべきものであった。この深刻な状況を受けて、同年10月に地元住民に対する説明会・意見交換会を実施した。またクサガメ・雑種問題対策の指針を作成し、雑種化進行防止の具体的方策の検討を進めた。2017年6月には中池見ねっとが呼びかけた地元ボランティアがクサガメ・雑種の隔離施設を作り、里親募集も始めた。譲渡された個体の更なる遺棄防止のため里親は1年更新制にし、今後施設で収容しきれない個体については殺処分も可とした。

中池見湿地におけるニホンイシガメの生息環境回復のためには、今後地元主体の長期的な防除活動が必要となる。そのため個体数推定を行って捕獲の努力目標を示し、雑種やクサガメが効率的に捕獲できる気候条件や場所を見極めて地元を引き継げるよう捕獲調査を続けている。また捕獲した個体についてDNAサンプル採取し、外部形態による判断と照合を行い、より確実に簡便な雑種判定方法を提示できるよう分析中である。



「なかいかげみ探偵団」（左） 野外調査（右） 座学



地元説明会・意見交換会

外来種・雑種収容施設